全国各地の万引防止対策の取組み

セキュリティ関連や小売業団体などで構成される全国万引犯罪防止機構（東京都新宿区、河上和雄理事長、℡03・3355・2322、以下万防機構）では、過日開催された通常総会後に京都、埼玉、香川の担当者を招き、万引き防止への取組みを紹介した。近年上昇傾向にある万引犯罪は、昨年こそ若干低下したものの、依然として高止まりの水準にあり、今後も継続的な取組みが求められる。今号では京都、埼玉、香川の万引防止対策の概要を紹介する。

京都府での学生防犯ボランティアの活動

後藤教利京都府警察本部生活安全企画課犯罪抑止対策室警部補
学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」
辻本阿弥代表（京都文教大学4回生）
得田真之介副代表（同志社大学4回生）

後藤「取組みについては、この後学生が説明します。私からは学生ボランティア「ロックモンキーズ」について話をさせて頂きます。京都は現在46大学があり、学生の街京都と言われ、学生の占める割合が多く、学生が被害者、加害者になる割合が大きくなっています。このことから学生の防犯意識、規範意識を高揚させる必要がありました。ボランティアとして、ベテラン世代の方々に頑張って頂いていましたが、高齢化などが問題になりつつあります。こうしたことを考えて、平成21年7月から学生ボランティアを立ち上げた訳です。ベテラン世代の方々と防犯活動をする中で、更に活性化していこうという目的で創設しました。創設当時は警察主導でやっていましたが、3年を経過した今では学生自らが考えて、自分たちの目線で京都の安全を守っていこうということで、自転車盗から振り込め詐欺、万引きなど各種犯罪抑止を目的に防犯活動を行っています。学生がこんな活動をしていることを知って頂ければと思います」

全国初の学生防犯ボランティア活動

辻本「冒頭に活動内容をまとめたDVD映像を紹介後）平成21年京都府警本部が、大学生の防犯意識や規範意識の高揚、及び学生の若い力を防犯に生かす目的で創設した学生防犯ボランティア制度に私たちは応募しました。この制度は大学のクラブやサークル単位で防犯活動をするのではなく、防犯活動に参加意欲のある個々の学生が警察に登録を申し出て、やる気のある個人の集まりとして活動をしています。大学の垣根を越えて学生が集まり、京都の安全安心を目指し頑張っています。様々な学生と知り合い、同じ目標に向かって協力し合って、これまでのキャンパスライフにはないダイナミックで魅力ある活動が展開できています。「ロックモンキーズ」に登録する大学数と学生数ですが、登録者は京都府内の大学に通う、もしくは京都府内に在住する大学生で構成されています。平成24年3月末、28大学131名が登録していました。

京都府警担当者と学生ボランティア

活動内容としましては、啓発、パレード、パトロール、防犯教室、各種防犯イベント、見守り活動、会議、研修会となっています。平成21年7月から活動を開始しまして、平成24年3月末での活動回数は513回、延べ人数3336名となっています。私たちは学生防犯ボランティアとして登録した後、京都府警が開く防犯ボランティア講習会を受けます。ここでは防犯ボランティアとしての役目やボランティアとしてできること、できないことなど活動の基本的な内容を学び、実際に街を歩きながら危険箇所を点検し、地域安全ニュースを作成します。防犯ボランティア講習会を終え、生活安全部長さんから学生防犯ボランティア登録証と現在私たちが着ているオレンジベスト、帽子、身分証を頂きます。私たちは各警察署の皆さまと一緒に様々な啓発活動をしています。京都駅前、地下鉄の改札口、オフィス街などです。私たちがオレンジベストを着て、街に繰り出し、地元の防犯ボランティアの方々と交流しながら元気良く活動すると、地域の方から若い人と活動すると活気が出ると大変喜ばれます。また、学生が防犯活動を行っていることが、周囲から注目されるなど大変反響を呼んでいます。私たちは警察が行う各種イベントやパレードにも積極的に参加しています。誘われてただ参加するだけでなく、自分達のアイデアを提言したり、イベントの司会も行います。また各大学でも活動を展開しています。多くの学生は交通手段として自転車を利用しています。しかし、学生が自転車盗被害にあったり、加害者になったりと学生と自転車犯罪は大変密接な関係があることから、警察と私たち学生が自転車盗撲滅を訴えようと大学周辺で撲滅キャンペーンを行いました。学生から学生へ自分達のキャンパスで自転車盗被害を呼び掛けることは、学生の共感を呼び、大きな効果があると思います。「ロックモンキーズ」だからこそできる活動です。

京都府取組み

私たちは自転車盗難や振り込め詐欺、ひったくり撲滅などを呼び掛けるだけでなく、万引き撲滅を呼びかける活動も行っています。（会場で写真を表示後）上の2つの写真は、ショッピングモールでの各店舗で万引き防止のポスターの掲示を呼び掛けているものです。下の写真は京都府警察音楽隊定期演奏会にて、万引きをテーマに寸劇を実施した様子です。この寸劇は劇練習や小道具などに多くの時間をかけ、とても思い出が強い劇となりました。更に私たちは学生にしかできないことをモットーに活動の場を拡げています。（再び会場で写真を表示）左上の写真は、京都駅前で振り込め詐欺被害防止活動を行った際、現警察庁の片桐長官が「ロックモンキーズ」を激励に来られた様子です。右上の写真はお笑いを取り入れた防犯寸劇を行った様子です。左下の写真は大学学園祭での啓発活動の様子です。これも学生が大学に申し入れ、キャンパス内での啓発活動が実現したものです。いずれも学生だからできることを常に考え、これまでにない活動を実現したものです。次は各種防犯大会や防犯教室で上映した防犯寸劇です。全国地域安全運動期間中、警察本部、京都市主催で行われる安心安全まちづくり京都大会での防犯劇や老人クラブなどで振り込め詐欺被害を呼び掛ける寸劇、園児対象の子ども安全を教える防犯教室など、興味を惹きつけながら効果的に防犯を伝えています。特に戦隊物のロックモンキーズレンジャーは子どもたちに大人気です。次は京都市成人の日記念式典における啓発活動です。これもメンバーの発案により、学生が京都市教育委員会に働き掛け、式典会場内で防犯活動が実現した事例です。新成人約900人に対して、振り込め詐欺や自転車盗、バイク盗被害防止を訴えました。併せて社会人として強い自覚を持ち、犯罪被害者にも加害者にもならないようにとの呼び掛けも行いました。京都市長さんも私たちを激励してくださり、教育委員会からは同世代が呼び掛けることは教育的効果も期待できると絶賛され、来年も引き続き活動を行って欲しいと声が掛かりました。

京都市に働き掛けて実現したのは観光地での夜間パトロールです。京都市が主催する神社仏閣の夜会拝観による観光イベント京都・東山花灯路で夜間パトロールを行いました。京都の観光イベントで、防犯パトロールや啓発を実施すれば、多くの人達に防犯を呼び掛けられるとメンバーが発案し、京都市へ参加を働き掛けた結果実現した事例です。

企業とのコラボレーションです。京都には日本を代表する企業があります。企業が会員である京都不正商品対策協議会が、「ロックモンキーズ」の活動を理解してくださり、防犯活動用品を支援してくださいました。それを持って、平成22年7月1日京都の中心地である四条烏丸でサイバー犯罪撲滅や著作権保護の啓発を行いました。活動の際、着物を貸して頂き、着物の似合う街京都らしく、学生が着物や浴衣を着て啓発活動を行い、大きな反響を呼びました。

京都府と京都市からの支援によって、私たちは新たな活動を展開することができました。これまでは交通費がないために、自宅や大学の周辺など主に京都市中心で活動をしていましたが京都府から交通費の支給を受け、京都府の最北端にある京丹後市などでも活動が可能となりました。更に京都市からは統廃合により使用していない元小学校の一室を「ロックモンキーズ」の拠点場所として提供して頂きました。これまで警察本部の倉庫や会議室を利用しており、学生が自由な時間に使用できませんでしたが、より学生のニーズに応じた活動が展開可能となりました。京都市からは約50万円の補助金も頂き、ビデオカメラやPCなどの電化製品も購入することができるようになり、質量ともにますます充実した活動が展開可能となりました。私たちの活動の目的は地域の再生にあると考えています。地域で頑張っておられる防犯ボランティアの皆さまは、高齢の方が多いように思われます。現役世代は忙しく、地域への活動になかなか参加できず、若者は地域活動への関心が薄いという現実があると思っています。私たち学生が自主防犯活動を行うことによって、学生がやっているのだから頑張ろうと地域のあらゆる層が立ち上がり、地域が一体となった活動が生まれ、失われかけた地域の絆や連帯が再生してくれればと願っています。地域再生への橋渡し、これこそが学生だからできること、学生にしかできないことではないかと私たちは考え、活動を行っています」

得田「万引きについての寸劇をしたので、その一部の映像を約5分間弱お見せしたいと思います」

寸劇では若い2人組が万引きをした店が、その店に詫びた後、再び万引きはしない、仲間に再び万引きをさせないことを約束。別の店で再び万引きを試みようとする仲間に対して、以前万引きをした店が閉店した旨を伝え、仲間にも万引きをするなと呼びかけ翻意させる内容。

埼玉県下各地の万引防止対策

森山稔埼玉県警察本部生活安全部少年課課長補佐

「まず、埼玉県の犯罪情勢についてお話させて頂きます。万引きを含めまして埼玉県の刑法犯認知件数は、平成16年をピークとして18万1350件ほど発生しました。その後、全刑法犯というのは年々減少しまして、現在は10万件台、ピーク時から約4割減少しました。万引きにつきましては、平成16年に約7900件余りあり、3年ほど徐々に減少しましたが、20年、21年と増え続けまして、9000件に届きそうになりました。その後、一昨年、昨年と続けて減少しておりますが、8500件前後と高水準で推移しております。万引きの検挙ですが、最近は全国的に少年が徐々に減少を示しています。埼玉県の少年の検挙人員は昨年1677人でした。最近では高齢者の万引きが埼玉県でも非常に増えており、昨年1400人余り。このままでは少年と高齢者がひっくり返るのではという勢いで、高齢者の万引犯罪が増えています。

埼玉県警担当者

埼玉県では万引き防止対策として、平成19年以降増加に転じた万引きに歯止めをかけるために様々な対策を講じてまいりました。その中で幾つかご紹介をさせて頂きますと。まず1つが東京都でも行っている取組みであろうと思いますが、埼玉県万引き防止官民合同会議を平成23年2月に発足しました。これは名前の通り、行政と警察と民間とともに、万引きは絶対に許さないという共通の認識の下に、垣根を越えた総合的な対策を展開しようということで、安心安全な埼玉県を目指して発足した訳です。今年度は7月8日から1週間、万引き撲滅週間と題しまして、県内至るところでキャンペーン活動を実施。警察官のお店立ち寄り、ボランティアの人と一緒になってパトロール活動を集中的に展開してまいります。

続いて県全体の取組みですが、万引防止フォーラムを一昨年から行っております。平成20年に1400件ちょっとでしたが、平成21年に43％程増えて2000件を越えてしまう深刻な状況となりました。そのほぼ半数が中学生による犯罪でした。我々警察は万引きをした犯人の話、お店の方の話、保護者の話、学校の先生方の話は全て聞きますが、各々の立場の方はこうした話を聞く機会がそんなにありません。そこで、この4者をぶつけてみましょうということで、中学生、事業者（商店主）、学校の先生、保護者を一堂に集めまして万引防止フォーラムを開催いたしました。23年の1月に第1回目を東京都の隣にある吉川警察署の管内にある吉川中央中学校でやった訳です。フォーラムに移る前、平日の4時限目、5時限目に先生の代わりに警察官が教壇に立って、非行防止教室の授業をさせて頂きました。その後、放課後の時間になりますが、事業者の方、保護者、生徒、先生方と万引きについて色々と意見交換しました。（スライドを示し）これが昨年行いました、さいたま市大宮区の学校の模様です。これが第2回目となるもので、第1月に開催しました。だいたい350人程出席を頂きまして、万防機構の稲本様にコーディネーターをつとめて頂きました。壇上に登っているのが中学生と保護者、そして事業者の方です。会場の方で地元の中学生が集っているものです。土曜日でしたが、大宮区の西にあります7つの中学校の生徒さん、先生方に集まって頂きました。この中で出た意見ですが、事業者の方が100円のモノを売っても1000円の儲けにならないということを子どもさんに説明しました。子どもというのは万引きに対する認識が非常に甘いようで、万引きが犯罪になるのか。まして警察に捕まってしまうとは思わないという、ずれた感覚を持っていたようです。その後、第2部で警察の音楽隊に来て頂き、演奏会を行いました。生徒からの意見ですが、万引き被害でお店が大変な思いをしていることが良くわかった、親にも悲しい思いをさせたくないので万引きは絶対にしてはいけないと再認識したという話をしていました。フォーラムの後に、生徒の心には非常に響いたのではないかと校長先生がおっしゃっていられました。お店の人が生徒の前で万引きする実態を話すのは、非常に有意義でしたと各学校の校長先生に非常に好評を頂いたフォーラムでした。最近の万引きでは保護者を呼び出すと逆にお店側が怒られてしまうことが多々あろうかと思います。保護者の方も、そういう実態を知って非常に驚いた、その辺の意識を変えなければいけませんね、と話されていました。因みにこの大宮西警察署の管内ですが、今年の4月まで万引きで検挙された少年はいません。

3つ目ですが、JR武蔵野線沿線に越谷レイクタウンという新しい駅ができました。大きいショッピングモールが開店した訳です。平成20年に開店して、中に約560店舗入っています。それまで越谷警察署管内では88件だった万引きが、これができた途端に233件と3倍近くに跳ね上がりました。我々警察としては、パトロール活動や交通の取り締まり活動に従事する警察官が非常に多く万引きに費やされてしまったことで、周辺住民の方々には非常に迷惑をお掛けしてしまいました。そこで、増えてしまった万引きを何とか抑えなければならないということで、周辺警察署でも様々な取組みを行ってまいりました。まず、万引きの実態の分析を行いました。その後、お店の店長さんを1件ごとに訪ねて、防犯診断を兼ねて防犯指導を行ってまいりました。この時に越谷警察署では、万引き防止のチェック表というものを作りました。レジから見て棚の高さがどれくらいか、防犯カメラが設置されているか、声掛けを従業員さんがされているのかといった17項目ほどあるチェック表です。それを基に防犯診断、防犯指導を行いました。そして私服・制服両方の警察官に巡回をさせ、お店にも制服の警備員さんによる巡回活動を徹底的にやって頂いた訳です。このチェック表が非常に効果を発揮しまして、このチェック表で否が多いところは実態を見ると万引き件数が多いという実態がありました。参考ですが、今年から県の西部にある所沢という警察署では、お店ごとに万引き防止のアドバイザーを委嘱したしまして、各店で指導して貰おうという取組みも行っています。

（レイクタウンの）お店に対する巡回指導を行い、最初の頃は警察に営業の何がわかる？売上は保険で何とかなるからという方、チェーン店の店長さんに指導した際には本部の意向がない限り、私の意見だけでは変えられませんと渋っていたお店もありました。警察官が来て対処すれば減るのではとおっしゃる店もあったようです。しかし、防犯診断等、地道な活動をやることで、徐々にお店の方も意識を変えて頂いたようで、お店によってはエリアマネージャーの方に対応して頂ける、また、自分のお店で発生すると、他の店にも非常に迷惑が掛かってしまうという意識が徐々に芽生えてきました。そしてもール全体で被害部署を測ろうという動きになってまいりました。

お店の一例を話しますと、お店に入ってすぐ陳列棚に香水などが置いてある店があり、ここは入ってすぐに出て行ってしまう、非常に万引きが多い店でした。そこで制服さん、先生方に集まって頂きました。この中で出た意見ですが、事業者の方が100円のモノを売っても1000円の儲けにならないということを子どもさんに説明しました。子どもというのは万引きに対する認識が非常に甘いようで、万引きが犯罪になるのか。まして警察に捕まってしまうとは思わないという、ずれた感覚を持っていたようです。その後、第2部で警察の音楽隊に来て頂き、演奏会を行いました。生徒からの意見ですが、万引き被害でお店が大変な思いをしていることが良くわかった、親にも悲しい思いをさせたくないので万引きは絶対にしてはいけないと再認識したという話をしていました。フォーラムの後に、生徒の心には非常に響いたのではないかと校長先生がおっしゃっていられました。お店の人が生徒の前で万引きする実態を話すのは、非常に有意義でしたと各学校の校長先生に非常に好評を頂いたフォーラムでした。最近の万引きでは保護者を呼び出すと逆にお店側が怒られてしまうことが多々あろうかと思います。保護者の方も、そういう実態を知って非常に驚いた、その辺の意識を変えなければいけませんね、と話されていました。因みにこの大宮西警察署の管内ですが、今年の4月まで万引きで検挙された少年はいません。

3つ目ですが、JR武蔵野線沿線に越谷レイクタウンという新しい駅ができました。大きいショッピングモールが開店した訳です。平成20年に開店して、中に約560店舗入っています。それまで越谷警察署管内では88件だった万引きが、これができた途端に233件と3倍近くに跳ね上がりました。我々警察としては、パトロール活動や交通の取り締まり活動に従事する警察官が非常に多く万引きに費やされてしまったことで、周辺住民の方々には非常に迷惑をお掛けしてしまいました。そこで、増えてしまった万引きを何とか抑えなければならないということで、周辺警察署でも様々な取組みを行ってまいりました。まず、万引きの実態の分析を行いました。その後、お店の店長さんを1件ごとに訪ねて、防犯診断を兼ねて防犯指導を行ってまいりました。この時に越谷警察署では、万引き防止のチェック表というものを作りました。レジから見て棚の高さがどれくらいか、防犯カメラが設置されているか、声掛けを従業員さんがされているのかといった17項目ほどあるチェック表です。それを基に防犯診断、防犯指導を行いました。そして私服・制服両方の警察官に巡回をさせ、お店にも制服の警備員さんによる巡回活動を徹底的にやって頂いた訳です。このチェック表が非常に効果を発揮しまして、このチェック表で否が多いところは実態を見ると万引き件数が多いという実態がありました。参考ですが、今年から県の西部にある所沢という警察署では、お店ごとに万引き防止のアドバイザーを委嘱したしまして、各店で指導して貰おうという取組みも行っています。

（レイクタウンの）お店に対する巡回指導を行い、最初の頃は警察に営業の何がわかる？売上は保険で何とかなるからという方、チェーン店の店長さんに指導した際には本部の意向がない限り、私の意見だけでは変えられませんと渋っていたお店もありました。警察官が来て対処すれば減るのではとおっしゃる店もあったようです。しかし、防犯診断等、地道な活動をやることで、徐々にお店の方も意識を変えて頂いたようで、お店によってはエリアマネージャーの方に対応して頂ける、また、自分のお店で発生すると、他の店にも非常に迷惑が掛かってしまうという意識が徐々に芽生えてきました。そしてもール全体で被害部署を測ろうという動きになってまいりました。

お店の一例を話しますと、お店に入ってすぐ陳列棚に香水などが置いてある店があり、ここは入ってすぐに出て行ってしまう、非常に万引きが多い店でした。そこで制服

埼玉県取組み

地域人口当たり万引犯罪ワーストワンからの再生

堀江良英香川県警察本部生活安全部生活安全企画課課長補佐

「まず香川県内の犯罪情勢について、簡単に説明させて頂きます。全国的には平成14年が刑法犯認知件数、犯罪発生総数のピークでした。香川は1年遅れまして、平成15年にピークを迎えました。当時は非常に路上強盗、コンビニ強盗、銀行強盗など凶悪な犯罪も多発していました。色々と対策は取ってきましたが、なかなか追い付かないということでボランティアにもお願いをして、この頃から地域の防犯ボランティアの活動も非常に活発になってきました。香川は平成15年をピークに、8年連続して減少しています。平成23年には、14年ぶりに（刑法犯総数）1万件を下回りました。平成15年にピークだった頃には2万2000件を越していました。東京や埼玉といった大都会の件数から比べれば桁が違いますが、香川にとってはこの2万件という数字はかなりの数です。それが14年ぶりに1万件を切り、昨年は9198件になりました。件数は減少してきましたが、中身を見ると昨年はコンビニ強盗が4件発生、牛丼店の強盗が発生、白昼の金融機関に拳銃のようなものを持って強盗に入った事件もありました。小学生が朝、登校時に声を掛けられて連れ去られるという誘拐事件も発生。非常に憂慮すべき状況が見受けられた年でございました。

香川県内の万引きの発生状況ですが、平成16年をピークに、だいたい1600件～1700件で推移していました。刑法犯の認知件数は右肩下がりで減少していますが、万引きはずっと同じような高止まりの状態で推移している状況です。それと私がびっくりしたのは、人口当たりの万引き認知件数が、平成15年から21年まで7年連続で香川県が全国ワースト1位であることです。万引きは案数が非常にある犯罪なので、順位付けというのはしていません。万引きが高止まりの状況で推移していたので、全国レベルで言えば、香川は一体どれくらいのレベルなのかと弾いてみると、何と東京都を抜いて断トツで1位。それが平成21年でした。そこで何時から1位だったのかをずっと遡って見ますと、平成15年からずっと1位だった訳です。当然香川県警としましてもワースト1位をどうにかしないといけないということで、県民の皆さんにも意識付けをして頂くために新聞報道をさせて頂きました。非常に大きく（新聞に）取り上げて頂き、この万引きの順位というのが県民の方々にとっても反響がありました。

万引き被疑者の年齢別を見てみますと、少年と高齢者が非常に多い。少年と高齢者が全体の半数以上を占めている状況です。今までは万引き対策というのは、万引き＝少年という意識があり、少年課が色々な活動をやっていました。平成23年には、14年ぶりに（刑法犯総数）1万件を下回りました。平成15年にピークだった頃には2万2000件を越していました。東京や埼玉といった大都会の件数から比べれば桁が違いますが、香川にとってはこの2万件という数字はかなりの数です。それが14年ぶりに1万件を切り、昨年は9198件になりました。件数は減少してきましたが、中身を見ると昨年はコンビニ強盗が4件発生、牛丼店の強盗が発生、白昼の金融機関に拳銃のようなものを持って強盗に入った事件もありました。小学生が朝、登校時に声を掛けられて連れ去られるという誘拐事件も発生。非常に憂慮すべき状況が見受けられた年でございました。

香川県内の万引きの発生状況ですが、平成16年をピークに、だいたい1600件～1700件で推移していました。刑法犯の認知件数は右肩下がりで減少していますが、万引きはずっと同じような高止まりの状態で推移している状況です。それと私がびっくりしたのは、人口当たりの万引き認知件数が、平成15年から21年まで7年連続で香川県が全国ワースト1位であることです。万引きは案数が非常にある犯罪なので、順位付けというのはしていません。万引きが高止まりの状況で推移していたので、全国レベルで言えば、香川は一体どれくらいのレベルなのかと弾いてみると、何と東京都を抜いて断トツで1位。それが平成21年でした。そこで何時から1位だったのかをずっと遡って見ますと、平成15年からずっと1位だった訳です。当然香川県警としましてもワースト1位をどうにかしないといけないということで、県民の皆さんにも意識付けをして頂くために新聞報道をさせて頂きました。非常に大きく（新聞に）取り上げて頂き、この万引きの順位というのが県民の方々にとっても反響がありました。

万引き被疑者の年齢別を見てみますと、少年と高齢者が非常に多い。少年と高齢者が全体の半数以上を占めている状況です。今までは万引き対策というのは、万引き＝少年という意識があり、少年課が色々な活動をやっていました。平成23年には、14年ぶりに（刑法

全企画課ということで、犯罪全般を担当しておりまして、それまで特に万引き対策は、そんなに重要視していなかった訳です。それより街頭犯罪という身近な犯罪である自転車盗やひったくり、路上強盗などの対策を中心に進めていた訳です。犯罪総数が減少してきた中で、この万引きだけがどうしても減少していないというところで色々と分析してみますと、高齢化とともに高齢者の割合が非常に増えてきた。これは少年課だけの問題ではないということで、県警挙げて対策を進めていかなければいけないと私どもも生活安全企画課が中心になって、万引き対策を21年から始めています。当然少年課も併行してやっています。

万引きの発生店舗の状況ですが、店舗数の多いスーパーマーケット、最近非常に香川でも増えてきました量販店、大型店舗での発生が非常に多い状況が窺えます。万引きの被害総額ですが、500円以下が約7割です。殆どが食料品や文房具といった、金額の少ない万引きが主流を占めています。それで香川県が人口当たりの万引き発生件数が全国ワーストワンというので、どうしてこんなに発生が多いのかと私自身不思議に思いまして、色々検討、調査しました。1つには香川の場合、万引きがあったら基本的には警察官が被害店舗に赴いて、そこで被害届を取ったり、実況検分をしたりして、殆どお店の方の時間を取らないで済むことが、通報率の高さになっていると考えられます。香川の場合は、何十年も前から同じような形で警察官が現場の方に行って、お店で現場処理をするというのが根付いています。もう1つは、万引きをしやすい環境であるということです。非常に大型量販店が増えました。人口当たりの大型小売店舗数は香川の場合全国6位ということで上位を占めている。これも1つの万引きをしやすい環境が整っている要因だと思います。

つい先日、万引きの関する新聞記事が載っていました。"246点山盛り万引　カート3台、かご6個駆使"と書いてあります。その下の記事には「相次ぐ大胆手口の万引」ということで、これは別々の万引きです。大型量販店でカート3台に、かごを6個積んで商品を山盛りにして、レジを通らずに万引きをしようとした。下の記事も同じような形です。最近はこういった非常に大胆な万引きも増えつつあるのが現状です。万引き防止に向けた対策ということで、香川でもワーストワンから脱却しようということで、色々対策を取ってきました。県内の万引きの厳しい状況を踏まえまして、香川大学と協働して香川県民は万引きに対して、どういう意識を持っているのかを調査しました。被疑者を対象とした調査、一般の青少年と高齢者を対象とした調査、家庭の保護者を対象とした調査、店舗の万引き被害に遭う恐れのある店舗（スーパー、コンビニ、書店、ドラッグストア、ホームセンター、家電量販店といった90店舗）へ大学生が調査票を持って、聞き取り調査を致しました。万引きの調査結果からですけど、青少年は共犯者がおり、仲間に誘われて万引きに手を染めるというのが大筋でございました。成人は生活に困窮しており、お金に余裕がなく万引きをする。高齢者は約8割の高齢者が、店舗に入った後に万引きを決行する。こういったことで、世代ごとに犯行の動機が異なるほか、店員による声かけや警備員等の巡回など人の目を増やすことが万引き抑止に非常に効果があるという調査結果が出ました。店舗では食料品等を扱うスーパーと書店では、万引きに対する取り組みや意識に非常に大きな差があるというような状況が、調査をする中でわかりました。書店はスーパーに比べて、警察への通報や張り紙等の防犯対策を積極的にやっております。やはり1冊万引きをされると5冊、10冊と売らないと利益が出ない。食料品を扱うようなスーパーは、消耗品のような扱いで賞味期限が切れたものと同じような扱いをするお店がある。中には非常に真剣に万引き防止対策をするお店もありますが、どちらかと言えば書店さんは死活問題であるという状況が窺えました。それから県内の大型店舗では、万引きによる年間被害額が数億円である。若い店員さんは年配の店員さんに比べて万引きに対する意識が非常に低いといった調査結果も出ています。

万引き防止対策その1ですが、香川県万引き防止対策協議会を23年2月に立ち上げました。これは当然、香川の万引き認知件数全国ワーストワンから脱却をしようということで、警察、県、教育委員会、関係機関、団体、コンビニやスーパー等の事業者の方々が参加をして、この万引き防止対策協議会を立ち上げた訳です。今年第2回の協議会を行いました。昨年作成した万引き防止DVDの試写会をやり好評でした。大学教授、弁護士、万引きGメン、店舗代表者が参加してシンポジウムをやって、色々な意見を出して、香川の万引きについて協議をさせて頂きました。その2として、万引き防止啓発指導者研修会の開催。昨年9月に万引きの被害と成り得るスーパー、ドラッグストア、コンビニ、書店といった防犯責任者の方を対象に開催しました。東京からも実際に万引きGメンの方を招聘して、万引きの実態や防止対策などについて情報交換を行ったほか、実際に店舗に赴いて商品の陳列方法や万引きの手口等について防犯指導を行いました。その3は緊急雇用創出基金を活用いたしまして、警備業者に業務委託をして、各コンビニ、量販店、書店を万引き防止のための店内巡回パトロールを実施。23年度に1回やりまして、今年度も予算がつきましたので、5月10日から来年3月31日まで県内一円の店舗を巡回しています。その4として、万引き防止啓発用ポスターの制作。万引きは犯罪、万引きをしたら大変なことになることを訴えないとポスターの意味がないということで、賛否両論ありましたが、こうした重たいポスター（万引きの罪は重い）に致しました。実際に我々が手錠をかけて、写真を撮って、印刷業者さんに作って頂いて、万引きをすればこういうことになると掲示しています。その5として、万引き防止DVDの制作。香川大学とは現在も連携しているのですが、香川大学さんで昨年予算を取って頂き、一般人や大学生